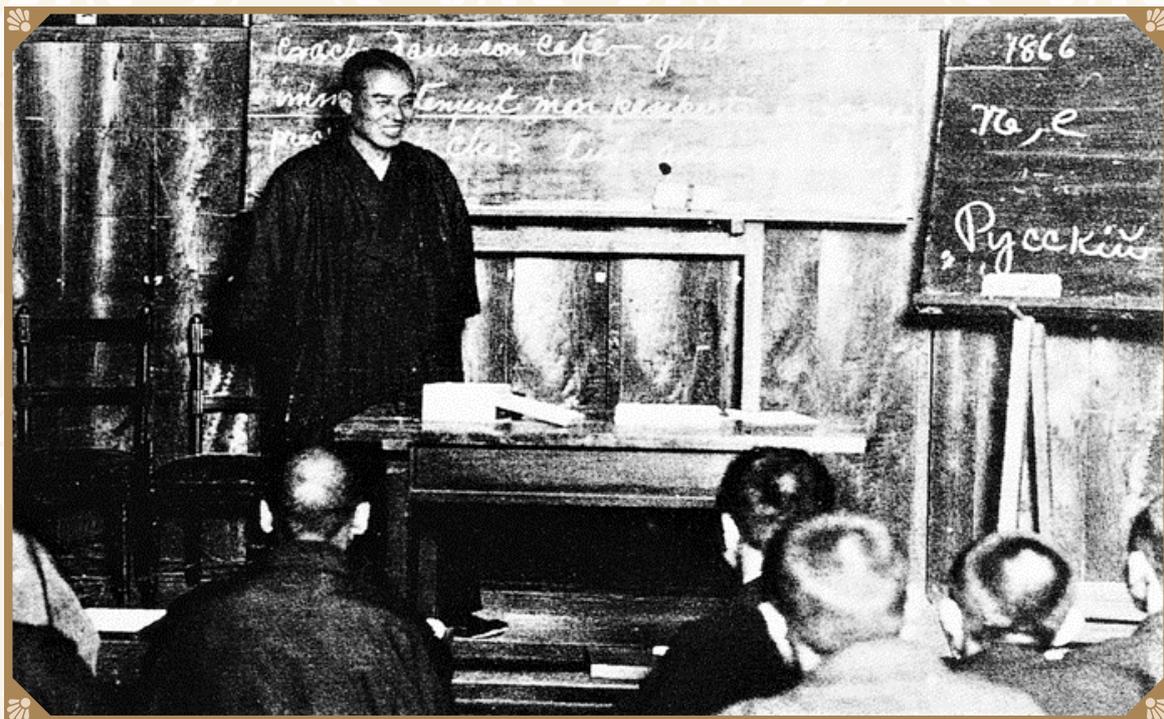


社会教育の先駆け

上田自由大学

を紹介します！



高倉輝(タカクラ・テル)の講義風景
(画像提供:上田市立博物館)

上田市教育委員会(生涯学習・文化財課)
監修・協力／自由大学運動100年記念フォーラム実行委員会
2023(令和5)年3月発行

上田自由大学 概要

◆上田自由大学とは？

大正後期から昭和の初めにかけて、長野県と新潟県を中心に全国各地で地域民衆の自己教育運動として自由大学運動が展開されました。この運動の出発点となった「上田自由大学（信濃自由大学 *1）」は、わが国のすぐれた社会教育の実践として、高く評価されています。

◆設立経過

上田自由大学は、上田・小県地域の青年たち *2 と在野の哲学者である土田杏村 *3 との人間的交流の中からつくり出され、設立されました。自由大学運動は、日々の生産活動に従事する民衆の立場から、新しい形態の民衆の学習機関を創造しようとするものでした。杏村は、自由大学を「民衆が労働しつつ生涯学ぶ民衆大学」とも述べており、民衆の自己教育を基礎に、労働と結びついた生涯にわたる学習の機関として構想されました。

内容は、哲学、文学論、倫理学、心理学などの人文科学系の講義とし、長期間、働きながら学習できる機関として運営されました。

1921（大正 10）年 6 月に「信濃自由大学趣意書」が起草され、7 月には一般に公開されました。同年 11 月 1 日には、上田自由大学の第 1 回の講義が行われました。途中、昭和恐慌や戦争によって中断しながらも 1946（昭和 21）年 11 月まで続けました。

◆どんな運動？

上田自由大学は、高等教育の機会に恵まれなかった青年たちが、自らの手で、学習の場を創造していった運動であり、知的欲求の向上と自己成長のための学習運動として展開され、生涯学習の先駆的活動といえます。

また、青年たちの一部は、美術の裾野を広げようと、種々の美術教育運動に奔走した山本鼎 *4 と共に「児童自由画運動 *5」、「農民美術運動 *6」にも取り組みました。「己の住む地域を自らの手で良くしたい」という明確な理念をもってこれらの運動に参画していたと言われています。

◆自由大学運動の影響

1924（大正 13）年には、自由大学の熱心な聴講者でもあった勝俣英吉郎上田市長による公営の上田市民大学が、社会教育事業の一環として発足しています。

「自由大学運動」「児童自由画運動」「農民美術運動」は、個性の尊重と主体性の尊重を大切に、生涯学習の精神である「自ら学ぶ」「自ら創る」「働きながら生涯学べる」運動であり、このような土壌が戦後の公民館活動や地域の社会教育活動の精神として市民に受け継がれ、現在に至っています。

*1 信濃自由大学…趣意書には「信濃自由大学」とあるが、1924（大正 13）年に「上田自由大学」と改称された。

*2 上田・小県地域の青年たち…神川村（現上田市）の金井正と山越脩蔵、上田市の猪坂直一ら。

*3 土田杏村…大正・昭和時代前期の哲学者。新潟県出身。神川村の青年たちとともに上田自由大学を創設した。

*4 山本鼎…大正時代に活躍した版画家、画家。愛知県出身。神川村で青年たちの協力を得て、児童自由画運動と農民美術運動をおこした。

*5 児童自由画運動…山本鼎が提唱した、児童の個性を尊重し児童の感じたままに絵を描く手法。現在の学校における美術教育の基礎となった。

*6 農民美術運動…山本鼎が始めた、冬期の農村の副業として木彫り人形などをつくり、都市で販売しようという運動。

上田自由大学 基本情報

提唱・推進者	やまこししゅうぞう 山越脩蔵
協力者	つちだきょうそん かないただし いさかなおかず 土田杏村 金井正 猪坂直一
主な聴講者	比較的富裕な農村青年、小学校教員等 (一部、芸妓や女性教師ら)
聴講料	1 講座 1 回 2 ～ 3 円 (当時教員の 1 カ月の給与は約 45 円)
開催時間	1 講座約 3 ～ 4 時間

上田自由大学

Q & A

Q 上田自由大学は、どこにあったのですか？

A 講座を行うための施設を建設する構想はありましたが、専用の建物はありませんでした。知的欲求を追求するため、様々な場所を借りて講師を呼び、皆で集い、学んだ場を「大学」としていました。

Q 上田自由大学のどんなところが評価されているのですか？

A 地方の若者が、「学びたい」という強い熱意をもって自主的に講座を開講したところが、全国的に高く評価されています。

Q どうして上田自由大学は終わってしまったのですか？

A 様々な理由がありますが、昭和恐慌 1930(昭和5)年～1931(昭和6)年等の不況により、当時の聴講者の収入源であった繭や蚕糸等の価格が下落し、聴講料を支払う余裕がなくなったこと等が主な要因だと考えられています。

Q 上田以外でも同じような運動がありましたか？

A 松本自由大学（松本市）、伊那自由大学（下伊那郡飯田町 / 現飯田市）、魚沼自由大学（新潟県北魚沼郡堀之内村 / 現魚沼市）、八海自由大学（新潟県南魚沼郡伊米ヶ崎村 / 現魚沼市）、群馬自由大学（群馬県前橋市）等、県内外で趣旨を同じくする運動が行われていました。その他、青森県、宮城県、京都府、兵庫県等でも自由大学運動が起こっています。

上田自由大学 講座一覽

学期	開講年月日	日数	講師	講座	聴講者数	会場
1	1921.11.1	7日間	恒藤 恭	法律哲学	56名	上田市横町神職合議所
	1921.12.1	6日間	タカクラ・テル	文学論	68名	上田市横町神職合議所
	1922.1.22	7日間	出 隆	哲学史	38名	上田市横町神職合議所
	1922.2.14	4日間	土田 杏村	哲学概論	58名	上田市横町神職合議所
	1922.3.26	2日間	世良 寿男	倫理学	35名	上田市横町神職合議所
	1922.4.2	5日間	大脇 義一	心理学	31名	上田市横町神職合議所
2	1922.10.14	5日間	土田 杏村	哲学概論	44名	上田市横町神職合議所
	1922.11.1	5日間	恒藤 恭	法律哲学	47名	県蚕業取締所上田支所
	1922.12.5	5日間	タカクラ・テル	文学論	63名	県蚕業取締所上田支所
	1923.2.5	5日間	出 隆	哲学史	50名	県蚕業取締所上田支所
	1923.3.9	5日間	山口 正太郎	経済学	34名	県蚕業取締所上田支所
	1923.4.11	5日間	佐野 勝也	宗教学	34名	県蚕業取締所上田支所
3	1923.11.5	6日間	中田 邦造	哲学概論		県蚕業取締所上田支所
	1923.11.12	5日間	山口 正太郎	経済思想史		県蚕業取締所上田支所
	1923.12.1	5日間	タカクラ・テル	文学論		県蚕業取締所上田支所
	1924.3.22	5日間	出 隆	哲学史	30名	県蚕業取締所上田支所
	1924.3.27	5日間	世良 寿男	倫理学		
	1924.4.1	5日間	佐野 勝也	宗教哲学		
4	1924.10.13	5日間	新明 正道	社会学(概論)	21名	上田市役所
	1924.11.3	5日間	今中 次麿	政治学(国家論)	30名	上田市役所
	1924.11.21	5日間	金子 大栄	仏教概論		上田市役所
	1924.12.10	5日間	タカクラ・テル	文学論		上田市役所
	1925.3.21	5日間	波多野 鼎	社会思想史		上田市役所
	1925.3.26	5日間	佐竹 哲雄	哲学概論		上田市役所
5	1925.11.1	5日間	新明 正道	社会学		
	1925.12.1	5日間	タカクラ・テル	文学論(フランス文学)	30名	上田市役所
	1926.1月		谷川 徹三	哲学史		
	1926.2月		中田 邦造	哲学(西田哲学)		
	1926.3月		金子 大栄	仏教概論		
	1926.3.22	5日間	松沢 兼人	社会政策		上田市役所
再建1期	1928.3.14	3日間	タカクラ・テル	日本文学研究	60名	上田図書館
	1928.11.19	3日間	三木 清	経済学に於ける哲学的基礎	25名	海野町公会堂
再建2期	1929.12.6	4日間	タカクラ・テル	日本文学研究	28名	海野町公会堂
	1930.1.24	3日間	安田 徳太郎	精神分析学	44名	海野町公会堂
昭和恐慌(1930年～1931年)や、満州事変～日中戦争～アジア・太平洋戦争(1931年～1945年)の影響による中断						
戦後	1945.12.27	3日間	タカクラ・テル	文学論		鷹匠町公会堂
	1946.2.17	1日	平野 義太郎	民主主義思想史		商工経済会上田支部
	1946.5.3	2日間	タカクラ・テル	文学論		商工経済会上田支部
	1946.5.25	2日間	山田 勝次郎	農業経済学		商工経済会上田支部
	1946.6.29	2日間	平野 義太郎	民主主義思想史		商工経済会上田支部
	1946.7.29	2日間	大内 兵衛	財政金融論		商工経済会上田支部
	1946.9.7	2日間	羽仁 五郎	歴史の革新		商工経済会上田支部
	1946.9.28	2日間	風早 八十二	資本論解説		商工経済会上田支部
	1946.11.5	2日間	禰津 正志	日本古代史		商工経済会上田支部

※空欄については詳細不明

【参考】山野晴雄「上田自由大学運動の歴史」(長野大学編『上田自由大学とその周辺』郷土出版社, 2006年)

山野晴雄「戦後上田自由大学の再建と展開」(長野県近代史研究会編『長野県近現代史論集』龍鳳堂, 2020年)

自由大学を聴講した人々

上田自由大学で学び、社会教育を推進した市長

勝俣英吉郎 1865(慶応元)年～1930(昭和5)年

かつまた えいきちろう

勝俣英吉郎は、馬場町上田藩御殿医の勝俣家に生まれました。県医師会長など歴任しながら1919(大正8)年上田市が発足すると同時に上田市議員となり、1924(大正13)年には第2代上田市長になりました。勝俣市政は、一言でいえば「文化・福祉市政」でした。自由大学を5回聴講した勝俣は、ハード面では、市営陸上競技場、野球場、児童遊技場、徴古館(博物館の前身)など、今日の上田市における社会教育施設の基礎を建設しました。ソフト面では、自由大学方式による「市民ニ通俗的ニ大学教育ヲ普及」(上田市民大学学則第1条 市民教育機関)することを目的とした「上田市民大学」を開講しました。1924年から勝俣が死去した1930年まで、地域住民の試みを市行政に取り入れるなど社会教育に熱心に取り組みました。このほか、上田盲学校の開校、『上田市史』の編纂などに力を注ぎました。勝俣が自由大学の熱心な聴講者であったことは、こうした取り組みを促すうえで「思想上相当影響があった」のではないかと語られています。(猪坂直一談)



(画像:上田市誌 人物編より)

上田自由大学で学び、神川を鉱毒から救った指導者

堀込義雄 1897(明治30)年～1981(昭和56)年

ほりこめ よしお

堀込義雄は、小県郡神川村上青木(現上田市)に四男として生まれました。1916(大正5)年、上田中学校(現上田高等学校)卒業後、教師生活を始めます。その生活は、1945(昭和20)年3月20日に渡された召集令状(赤紙)によって終わりました。復員した戦後は政治の世界へ転身し、神川村の初代公選村長、県議会議員を経て、“初の革新市政”を行う上田市長となりました。

教師と政治家という異なった分野を歩いてきた堀込の生き方は、「青春時代に培われた大正デモクラシーの自由闊達な精神、哲学が、生活の中に脈々と波打っていた」といいます。また、「(児童)自由画、農民美術とともに」6回聴講した「自由大学」が「大きな影響を与えた」とも書かれています。* 1953(昭和28)年10月、神川村長時代に起きた「菅平十ノ原硫黄採取反対運動」の先頭に立ち、鉱毒被害の反対運動において全国初の勝利をもたらしました。神川流域住民の生存権を守るためにとったこうした行動は、自由大学で得た学びの延長線上にあるものでした。



(画像:上田市誌 人物編より)

* 堀込藤一『清冽なる流れ「神川」と生きて 父・堀込義雄』私家版, 2011年

上田自由大学運動 中心人物



(画像提供:上田市立博物館、
現物は金井忠雄氏蔵)

自由大学運動の提唱者

山越脩蔵 1894(明治27)年～1990(平成2)年

やまこし しゅうぞう

山越脩蔵は、ちいさがたくんかんがわむら小県郡神川村国分(現上田市)で養蚕・蚕種製造業である山越家の6番目の子として生まれました。しかし、兄姉3人が病気で次々と亡くなり、男は脩蔵一人になりました。1912(明治45)年、上田中学校(現上田高等学校)を卒業し、上級学校への進学を望みましたが、家庭の事情により叶わず家督を継ぐことになりました。同じ国分に生まれ、互いに似た境遇を持つ金井正と親しく交流を持つようになったのは1913(大正2)年ころからでした。その後、村の青年会との関係が深まり、農家経営の基礎的な修養を身につけたり、金井とともに村内の生産力調査をしたりする中で、見聞を広める必要性を感じました。現状を憂う農村の青年たちと連携して、地域社会の改造や政治の刷新を追求する社会的人間としてふさわしい人づくりを求め、土田杏村を講師に招いた哲学講習会を機に自由大学の構想を固め、金井正、猪坂直一等、周囲の協力を得て上田自由大学開講を実現しました。



(画像提供:上田市立博物館、
現物は金井忠雄氏蔵)

自由大学運動の推進者

金井正 1886(明治19)年～1955(昭和30)年

かない ただし

金井正は、蚕種製造農家の三男として小県郡神川村国分(現上田市)に生まれました。早世した長男に代わり、家を継ぐはずだった次男も病に倒れて亡くなってしまい、正が家を継ぐことになりました。上田中学校の8歳後輩で、生涯共に歩んだ山越脩蔵が記した「金井正さんのこと」には、兄の死により家督相続をしなければならず、また亡兄の妻との結婚から、東京の大学で文学研究をしたいという自分の将来の望みが断たれ、「これまで考えていた自分の進路を根本から変更することになった」と書かれています。村会議員として活動しながら、児童自由画運動や農民美術運動、さらには

哲学講習会に積極的に関わり、山越と共に自由大学を設立し、運営に協力しました。のちに神川村の助役から村長になりました。



(画像:上田市誌 人物編より)

自由大学の運営に尽力

猪坂直一 1897(明治30)年～1986(昭和61)年

いさか なおかず

猪坂直一は、蚕種仲買業の長男として上田市横町に生まれました。蚕種の販路は鳥取、兵庫など広範囲に及び、小学校の転校を繰り返しながらも再び上田尋常小学校に戻りました。1914(大正3)年、小県蚕業学校(現上田東高等学校)を卒業し、一度は小牧養蚕組合等に勤めましたが、向学心が旺盛だった直一は勤めを辞め、上田蚕糸専門学校(現信州大学繊維学部)に入学しました。その後、1920(大正9)年、蚕糸雑誌社の設立に参画し、蚕糸業界のオピニオン・リーダー(指導者)として活躍します。一方、自由大学運動では末広町の自宅を事務所として提供し、専任理事として事務局を引き

受けるなど、運営に尽力しました。上田で始まった自由大学は県内外に設立され、それらの大学と連絡協調を図るため「自由大学協会」が設立されると、直一は専務幹事として機関紙『自由大学雑誌』の編集・発行も担当しました。



(画像提供:佐渡博物館)

信濃自由大学趣意書を起草した哲学者

土田杏村 1891(明治24)年～1934(昭和9)年

つちだ きょうそん

土田杏村(本名:土田茂)は、新潟県佐渡郡新穂村(現佐渡市)に生まれました。西田幾多郎に哲学を学び、京都帝国大学(現京都大学)文科大学哲学専攻を卒業しました。哲学を基礎において文化の諸問題に取り組んだ新進の哲学者であり、杏村を「信頼のおける指導者」と考えた山越脩蔵に請われ、1920(大正9)年9月に信濃国分寺客殿で哲学講習会の講師を務めました。山越は講習会の成功から、さらに視野を広げ、哲学だけではなく、広く人文・社会科学系の学問を系統的に学ぶ民衆自身の学習機関をつくる重要性を土田に提起します。山越と土田の交流により自由大学の構想は具体化し、

土田は自ら「信濃自由大学趣意書」を起草し、1921(大正10)年7月には一般に公開されました。その後、上田自由大学の講師も務めました。



(画像提供:高知県立文学館)

別所温泉に居を構えた文学者・作家

高倉輝 (タカクラ・テル*) 1891(明治24)年～1986(昭和61)年

たかくら てる

高倉輝(本名:高倉輝豊、のちに輝と改名)は高知県高岡郡窪川村(現四万十町)に生まれました。第三高等学校から京都帝国大学(現京都大学)文科大学英文科へ進学し、言語学を学びました。大学では英文学だけでなくロシア語・ロシア文学を学び、卒業後も同大学法科大学国際私法研究室嘱託となって研究を続けました。1919(大正8)年には雑誌『改造』に戯曲を発表するなど、創作に傾いていき、1922(大正11)年に大学を辞め、その後上田市別所温泉に移住し作家として独立しました。土田杏村の勧めで自由大学に積極的にに関わり、文学論等多くの講座で講師を務め、聴講者からも好評を博しました。また、農村青年たちとの交流から農村問題に関心を持つようになり、農民運動に関わりました。1946(昭和21)年には衆議院選挙に立候補し当選する等、政治活動も行いました。

* 国語国字改革(日本語の表記を巡る諸改革)を推進する立場から、自身の名前も「タカクラ・テル」とカタカナで自称した。

上田自由大学運動発足に影響を与えた人物



(画像提供:上田市立美術館)

創造と自由を追求した大正時代の芸術家

山本 鼎 1882(明治15)年～1946(昭和21)年

やまもと かなえ

山本鼎は愛知県岡崎市に生まれました。東京・浅草に移住した鼎は尋常小学校4年を卒業すると、桜井虎吉(暁雲)の木版工房へ弟子入りし、当時の印刷技術であった木口木版の技術を習得しました。1898(明治31)年、父・一郎が小県郡神川村の大屋に大屋医院を開業。1904(明治37)年に鼎は雑誌『明星』に木版画「漁夫」を発表し、当時印刷技術として扱われていた版画の美術的要素と価値を主張しました。東京美術学校(現東京藝術大学)卒業後、画家としても活躍し、1912(明治45)年にフランスへ渡り4年余りの滞欧生活を送ります。途中、ロシアに滞在し、児童の絵とその教育について関心を抱いた鼎は、帰国後「児童自由画教育運動」を起こしました。当時、日本の図画教育は臨画(お手本の模写)などが主流で、鼎はこの教育方針に異議を唱え、絵を描く技術、方法が重要なのではなく芸術自体の意義や行為そのものが児童の発育にとって大切だと説きました。また、同時期、厳冬期が長い農村の副業として「農民美術運動」を起こしました。農民が芸術的美しさを備えた生活雑貨(木製品や織物等)や木彫人形を作り、都市へ向けて販売し、農閑期の収入につなげようというものです。農民美術運動は神川村で交流のあった金井正・山越脩蔵らの協力を受け、新しい副業として全国各地の農村で実践されました。

鼎の創造と自由を追求する活動は、山越・金井に大きな影響を与え、自由大学運動発足の一つのきっかけとなりました。

上田市の生涯学習と上田自由大学

急激に社会が複雑化している中で、より充実した人生を送るため、生涯学習の重要性は一層高まっています。上田市では、皆さんの自発的な学習活動を現在そして未来につなげるため、市民グループ等と連携して「生涯学習シンポジウム」を開催しています。令和2年度から令和4年度にかけては、「上田自由大学」をテーマとしました。

今後も上田自由大学の「自ら学ぶ」精神を大切にしながら、社会教育運動の意義を顕彰し、周知・発信するとともに、様々な生涯学習の取組を推進してまいります。当冊子を通して100年前の若者たちが行った運動を知り、学びについて考える契機となることを願います。

【令和2年度】「私たちの はてしない物語 ～上田自由大学・若者たちの試み～」

日 時 令和3年2月28日(日) 午後1時30分～3時30分

場 所 上田市中央公民館 大会議室

●基調発表

「上田(信濃)自由大学運動とは」

発表者：ワカモノLABO(長野大学1年生と地域の方が参加している、まちづくりを考えるグループ)の皆さん

●パネルディスカッション

「上田自由大学から学んだこと・伝えたいこと」

講 師：長島伸一さん(長野大学名誉教授)、小平千文さん(上田小県近現代史研究会会長)、
安井啓子さん(蚕都くらぶ・ま～ゆ代表)

コーディネーター：藤川まゆみさん(上田市民エネルギー代表)

【令和3年度】「上田から始まる自由大学100周年! 私たちの はてしない物語 2021」

日 時 令和3年9月11日(土) 午後1時30分～4時30分

場 所 サントミュージゼ 大ホール

●基調講演

「上田自由大学から学ぶ」

演 題：「自由大学研究の愉しみとこぼれ話二つ三つ」 講 師：長島伸一さん(長野大学名誉教授)

●パネルディスカッション

「学び、感じ、考え、行動する」

講 師：尾崎行也さん(上田社会教育大学学長)、佐藤一子さん(東京大学名誉教授)、
鳥居希さん(株バリューブックス取締役)、やぎかなこさん(上田映劇ボランティアスタッフ)

コーディネーター：船木成記さん((一社)つながりのデザイン代表理事)

●その他

大ホールホワイエにて社会教育団体・市民団体・NPO法人・学生等、14団体の学習・文化活動を紹介

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため無観客開催。後日ケーブルテレビでの放送および上田市行政チャンネルで配信

【令和4年度】「自由大学運動100年記念フォーラム」

(主催：自由大学運動100年記念フォーラム実行委員会)

テーマ 自由大学運動100年から学ぶ 過去・現在・未来

日 時 令和4年11月13日(日) 午前9時20分～午後4時30分

場 所 上田商工会議所 ホール

●基調報告

「上田自由大学運動の歴史」山野晴雄さん(自由大学研究者)

「自由大学の理念と精神とはどのようなものか」長島伸一さん(長野大学名誉教授)

●シンポジウム

「自由大学の理念と精神を継承するために」

シンポジスト：山野晴雄さん(自由大学研究者)、窪島誠一郎さん(無言館館主)、清川輝基さん(さくら国際
高等学校校長)、佐藤一子さん(東京大学名誉教授)、村山隆さん(ヤマмбаの会事務局長)

司会者：小平千文さん(上田小県近現代史研究会会長)



【参考文献】

自由大学研究会編『自由大学運動と現代—自由大学運動六〇周年集会報告集—』信州白樺社、1983年

上田市誌編さん委員会編『上田市誌 近現代編(1) 新しい社会を求めて』上田市、2002年

上田市誌編さん委員会編『上田市誌 人物編 明日をひらいた上田の人びと』上田市、2003年

大槻宏樹・長島伸一・村田晶子編『自由大学運動の遺産と継承—90周年記念集会の報告—』前野書店、2012年

長島伸一『民衆の自己教育としての「自由大学」』梨の木舎、2022年